

エコアクション21
環境経営レポート

令和 2年度
(活動期間：令和 2年 8月 ～ 令和 3年 7月)



春の訪れ～菜の花（高知県四万十市入田）



エコアクション21
認証番号0007526

いのこ ざ けん せつ 豚 座 建 設 株 式 会 社
高知県四万十市古津賀2丁目6番地

目 次

1. 組織の概要
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
3. 環境方針
4. 環境管理組織体制
5. 環境活動への取組の全体概要
6. 環境目標
7. 環境活動計画
8. 環境目標の実績
9. 環境活動計画の取組結果とその評価
10. 次年度の環境活動計画の取組内容
11. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
12. 代表者による全体評価と見直しの結果

発行日：令和 3 年 10 月 29 日

発行責任者：環境管理責任者 三吉 規文

次回発行予定：令和 4 年 10 月 頃

1. 組織の概要

【事業所名】 豚座建設株式会社

【代表者氏名】 代表取締役 佐田憲昭

【所在地】

本 社： 高知県四万十市古津賀2丁目6番地
具同倉庫： 高知県四万十市具同7388番地13

【環境管理責任者氏名及び担当者連絡先】

環境管理責任者氏名： 総務部長 三吉規文
連絡先担当者： “ ”
連絡先 TEL： 0880-34-6031
FAX： 0880-34-2850
E-Mail： inoko3@poppy.ocn.ne.jp

【事業活動の内容についての簡単な記述】

○建設業（主に土木・建築等の工事の施工）

建設業許可番号	特定建設業（高知県知事許可） （特-30）第000752号	一般建設業（高知県知事許可） （般-30）第000752号
許可年月日	平成30年 9月30日	平成30年 9月30日
建設業の種類	土木工事業 建築工事業 とび・土工工事業 舗装工事業 造園工事業 水道施設工事業 解体工事業	管工事業

○重機・自動車修理・整備業（使用済自動車の解体は行わない）

自動車分解整備事業許可番号 四国運輸局 四運証第80-349号

【事業規模】

設立年月日 昭和38年 3月12日
資本金 2,000万円

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和 1年度	令和 2年度
完成工事高（百万円）	1,616	1,193	1,443	2,204	1,153
従業員数（名）	59	60	62	62	62
本社敷地面積（㎡）	13,320	13,320	13,320	13,320	13,320
“ 延床面積（㎡）	2,133	2,133	2,133	2,133	2,133
具同倉庫敷地面積（㎡）	1,593	1,593	1,593	1,593	1,593
“ 延床面積（㎡）	490	490	490	490	490

各年度の従業員数は、各年 7月末日現在

会計年度 8月 ～ 7月

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

【対象範囲（認証・登録範囲）】

豚座建設株式会社 全社

本 社： 高知県四万十市古津賀2丁目6番地

具同倉庫： 高知県四万十市具同7388番地13

対象事業： 土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、
造園工事業、水道施設工事業、解体工事業、管工事業、重機・自動車修理業

【レポートの対象期間】

令和 2年 8月～令和 3年 7月

【環境活動レポートの発行日】

令和 3年 10月 29日

【作成責任者】

環境管理責任者

三吉規文

SDGs 一継続可能な開発目標一

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals : SDGs)」は、産業革命以降急激に活発化した人間活動により、経済・社会の基盤でもある地球の持続可能性が危ぶまれていることに端を発します。

2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際目標です。SDGsは、貧困や飢餓から環境目標、経済成長やジェンダー平等まで幅広い課題が網羅されています。

持続可能な世界を実現するため、豊かさを求めながら、地球環境を守るため17のゴールとゴールを達成するために169のターゲットが設定され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

人々が豊かな生活を送るための事業を、生業としている建設業としてもこの問題・目標は避けては通れないものと考えます。

豚座建設としてもSDGsを支援し、まずは取り組める問題から真摯に取り組み、目標達成に貢献していきます。



社員とその家族が健康で働けるように、様々な取り組みを継続的にを行っています。

「健康経営優良法人」や、「ワークライフバランス推進企業認証」、「仕事と育児の両立」などに取組んでいます。

豚座建設は地域社会とともに、発展していくことを目指しています。

建設業として技術をつくし、豊かな生活を支援することと、様々なボランティア活動を展開しています。

未来の地球のため、持続可能な社会の実現に向けて地球環境に配慮した建設会社を目指しています。

様々な活動に取り組み、「エコアクション21」の認定を受けています。

3. 環境経営方針

〔環境理念〕

豚座建設株式会社は、「より高度な技術、創意工夫をもって地球環境に貢献する。」という理念に基づき、次のとおり環境経営方針を定め、これを策定します。

〔環境経営方針〕

近年、私たちの日常生活においては快適な生活を送る事が出来るように、便利な道具・食糧品が数多く溢れています。

その代償として多量なエネルギー・資源が消費され、また多量の廃棄物を生み出し大量のCO₂が排出され、近年みられる気候変動・生物生態系の異常など、地球環境に多大な負荷を与えています。

この重要課題に対応し、人類の目標とする「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」を目指し、私達は事業活動における環境負荷の低減を図り、以下の取り組みを含め、自主的・積極的に環境経営活動に取り組み、継続的改善による環境経営を推進していきます。

1. 事業活動に適用される環境関連法令、規則、協定等を遵守します。
2. 当社の環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全活動を展開します。
3. 次の項目を重点活動として、事業活動の環境負荷の低減を推進します。
 - (1) 建設工事から生じる環境への影響を把握し、環境に配慮した施工の実施、資機材の利用を促進します。
 - (2) 電気、燃料等のエネルギーの使用量を低減し、CO₂削減を行います。
 - (3) 廃棄物の再資源化を推進し、排出量を削減します。
 - (4) 水の使用量を低減します。
 - (5) 化学物質を適正管理します。
 - (6) 地域社会における環境保全活動に積極的に参加します。
 - (7) 環境意識の改善を図り、グリーン購入及びエコドライブを実施します。
 - (8) 建設現場での汚濁水流出を防止し、四万十川の水環境に配慮します。
4. この環境経営方針は、監督会・朝礼・ミーティング等を活用して、全従業員に周知させるとともに社内教育を実施し、環境保全活動の重要性を啓発します。また、当社はこの方針を一般に開示します。
5. 環境経営レポートを作成し、外部に公表します。

平成 24 年 11 月 15 日

(令和 3 年 5 月 17 日 一部改定)

豚座建設株式会社

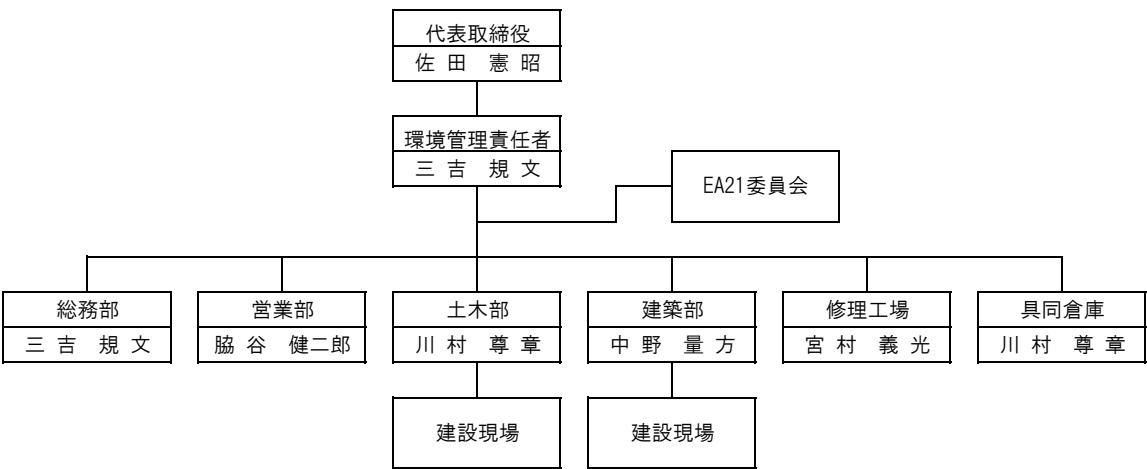
代表取締役

佐田 豊昭



4. 環境経営実施体制

1. 組織表



2. 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表取締役	・ 環境経営に関する統括責任 ・ 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・ 環境管理責任者及び部門の責任者の任命 ・ 環境経営システムを適切に実行するために必要な「資源」の提供 ・ 環境経営目標、環境経営計画、環境経営実施体制の承認 ・ 環境への取組の評価・見直しを実施し、必要な指示を行う
環境管理責任者	・ 環境経営システムの構築、運用、管理 ・ 環境経営目標、環境活動計画、環境経営実施体制の確認 ・ 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況の承認 ・ 環境経営目標の達成状況の把握、分析 ・ 環境経営活動の取組結果を代表取締役へ報告 ・ 環境経営レポートの作成、公表
EA21委員会	・ 委員会の開催 ・ 環境管理責任者の役割・業務遂行の補助 ・ 環境負荷の自己チェック表及び環境への取組の自己チェック表の作成 ・ 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況の把握 ・ 環境経営目標、環境活動計画、環境経営実施体制原案の作成 ・ 環境関連の外部コミュニケーション窓口
部門の責任者	・ 環境経営方針の理解 ・ 環境経営方針の部門内への周知 ・ 環境経営目標及び環境経営活動の理解、実施 ・ 部門内における環境経営システムの実施 ・ 環境関連法規等の遵守 ・ 部門内の従業員に対する教育訓練の実施
従業員	・ 環境経営方針の理解 ・ 環境関連法規等の遵守 ・ 環境経営目標及び経営活動計画の理解、実施 ・ 環境経営への積極的な取組

5. 環境活動への取組の全体概要

当社は、「2017年版エコアクション21ガイドライン」をもとに、環境負荷の自己チェックを行い環境経営目標の達成状況を評価し、改善に取り組んでいます。

<全体概況>

二酸化炭素（CO₂）排出量は、目標値の約93%となりました。

令和3年3月には、1つの建設現場において排出される二酸化炭素（CO₂）のうち、22t-CO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

各使用量につきましては、工事施工域が高知市や高岡郡四万十町など広域になったことが原因で、ガソリン、宿舎に係る電気・ガス・用水の使用量が増加に転じています。

産業廃棄物の再資源化率は82.9%と、目標値よりダウンしてしまいました。本年度も建物などの解体撤去の工事割合が多く、ここから排出された再資源化の困難な、廃プラスチック・建設混合廃棄物などが再資源化率を押し下げた要因となっています。

今年度も、本社屋の南側と西側にゴーヤとアサガオを植え、緑のカーテンをつくりました。（※1）

給湯室やトイレの手洗いはセンサー式の自動水栓に更新し、過剰な水の排出抑制に役立っています。

ゴミ拾い活動や本社で使用するゴミ袋は、再生プラスチック100%の環境に配慮した製品の使用にしました。

環境美化活動については、ロードボランティア活動を11回実施しました。また、前年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施を見送られる事が多かった地域の清掃活動等につきましては、今年度は増加し10回の参加・実施（※2）することができました。

※1 緑のカーテン（ゴーヤ・アサガオ）



※2 ロードボランティアなど、清掃活動



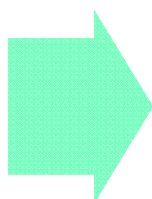
<豚座建設株式会社 の物質フロー>（令和 2 年度）

電気使用量
104,796 kWh

使用燃料
77,356 L

原材料
8,212.7 t

用水
1,289.6 m³



豚座建設株式会社 事業活動

土木工事業
建築工事業
とび・土工事業
舗装工事業
造園工事業
水道施設工事業
解体工事業
管工事業



CO₂排出量
248,408 kg-CO₂

廃棄物
1,536.4 t

排水
1,289.6 m³

6. 環境経営目標

(1) 単年度目標

項目	単位	基準年 平成28年度 H28. 08-H29. 07	目標 令和 2年度 R02. 08-R03. 07	備考
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂)	271, 850	266, 413	基準年値より2%削減 ※ 1
燃料使用量	(ℓ)	90, 148	88, 345	基準年値より2%削減
電力使用量	(kWh)	80, 257	78, 652	基準年値より2%削減
LPガス使用量	(kg)	111	109	基準年値より2%削減
用水使用量	(m ³)	748	733	基準年値より2%削減
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 750	2, 695	基準年値より2%削減
産業廃棄物排出量	(t)	740	725	基準年値より2%削減
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	
環境美化活動	(回)	10	10	
環境負荷の少ない工事件数	(%)	(11/11件) 100	100	※ 2

※ 1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の四国電力㈱の調整後排出係数 0. 535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※ 2. 環境負荷の少ない工事件数（完成工事高 1, 000万円以上の工事を対象とした）

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

(2) 中長期目標

（平成28年 8月～平成29年 7月を基準年とする。）

項目	単位	平成28年度 H28. 08-H29. 07 実績（基準年）	令和 2年度 R02. 08-R03. 07 基準年値より2%削減	令和 3年度 R03. 08-R04. 07 基準年値より3%削減	令和 4年度 R04. 08-R05. 07 基準年値より4%削減	令和 5年度 R05. 08-R06. 07 基準年値より5%削減
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂)	271, 850	266, 413	263, 695	260, 976	258, 258
燃料使用量	(ℓ)	90, 148	88, 345	87, 444	86, 542	85, 641
電力使用量	(kWh)	80, 257	78, 652	77, 849	77, 047	76, 244
LPガス使用量	(kg)	111	109	108	107	105
用水使用量	(m ³)	748	733	726	718	711
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 750	2, 695	2, 668	2, 640	2, 613
産業廃棄物排出量	(t)	740	725	718	710	703
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	99. 0	99. 0	99. 0
環境美化活動	(回)	10	10	10	10	10
環境負荷の少ない工事件数	(%)	(11/11件) 100	100	100	100	100

7. 環境経営目標（原単位 売上百万円当り）

（1）単年度目標

項目		基準年 平成28年度 H28. 08-H29. 07	目標 令和 2年度 R02. 08-R03. 07	備考
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)	168. 2	164. 9	基準年値より2%削減 ※ 1
燃料使用量	(ℓ/百万円)	55. 8	54. 7	基準年値より2%削減
電力使用量	(kWh/百万円)	49. 7	48. 7	基準年値より2%削減
LPガス使用量	(kg/百万円)	0. 069	0. 067	基準年値より2%削減
用水使用量	(m ³ /百万円)	0. 463	0. 454	基準年値より2%削減
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1. 702	1. 668	基準年値より2%削減
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	0. 458	0. 449	基準年値より2%削減
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	
環境美化活動	(回)	10	10	
環境負荷の少ない工事件数	(%)	(11/11件) 100	100	※ 2

※ 1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の四国電力㈱の調整後排出係数 0. 535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※ 2. 環境負荷の少ない工事件数（完成工事高 1, 000万円以上の工事を対象とした）

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

（2）中長期目標

（平成28年 8月～平成29年 7月を基準年とする。）

項目	単位	平成28年度 H28. 08-H29. 07 実績（基準年）	令和 2年度 R02. 08-R03. 07 基準年値より2%削減	令和 3年度 R03. 08-R04. 07 基準年値より3%削減	令和 4年度 R04. 08-R05. 07 基準年値より4%削減	令和 5年度 R05. 08-R06. 07 基準年値より5%削減
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)	168. 2	164. 9	163. 2	161. 5	159. 8
燃料使用量	(ℓ/百万円)	55. 8	54. 7	54. 1	53. 6	53. 0
電力使用量	(kWh/百万円)	49. 7	48. 7	48. 2	47. 7	47. 2
LPガス使用量	(kg/百万円)	0. 069	0. 067	0. 067	0. 066	0. 065
用水使用量	(m ³ /百万円)	0. 463	0. 454	0. 449	0. 444	0. 440
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1. 702	1. 668	1. 651	1. 634	1. 617
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	0. 458	0. 449	0. 444	0. 440	0. 435
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	99. 0	99. 0	99. 0
環境美化活動	(回)	10	10	10	10	10
環境負荷の少ない工事件数	(%)	(11/11件) 100	100	100	100	100

8. 環境活動計画

期間：令和2年8月～令和3年7月

項目		活動内容		担当者	期間		
CO ₂ 排出量 削減	燃料使用量 削減		急発進、急加速の禁止	各部門長、各現場代理人	R02.08-R03.07		
			不要なアイドリングの禁止	各部門長、各現場代理人	//		
			重機による積込みを効率良く行う	各部門長、各現場代理人	//		
			車両点検を定期的に行う（タイヤ空気圧、オイル等）	各部門長	//		
			移動経路のプランニング、可能な場合は乗り合わせる等、効率的な移動・稼働をする	各部門長、各現場代理人	//		
			長期退室時は消火を行い、不必要なストーブ稼働はしない	各部門長、各現場代理人	//		
			換気時以外、ストーブ使用時は不必要にドアを開けっ放しにしない	各部門長、各現場代理人	//		
			電力使用量 削減		昼休み・退社時の消灯を徹底する	各部門長、各現場代理人	//
					長時間使用しないOA機器は電源を切り、不必要な機器はプラグを抜く	各部門長、各現場代理人	//
					エアコンの過度な温度設定は控える	各部門長、各現場代理人	//
	エアコンフィルターの清掃をする	各部門長、各現場代理人			//		
			トイレ・会議室・倉庫・給湯室等の照明は使用時のみ点灯する	三吉	//		
			冷房効果を上げるため、現場事務所上部に寒冷遮を張る	川村、中野、各現場代理人	//		
			冷房効果を上げるため、エアコン室外機の設置箇所などを工夫する	川村、中野、各現場代理人	//		
用水使用量削減 （排水量削減）			こまめに蛇口の栓を閉める	各部門長、各現場代理人	//		
			漏水箇所を発見したら、早急に改善する	各部門長、各現場代理人	//		
廃棄物削減	一般廃棄物		文書等で可能なものについては回覧をする	各部門長、各現場代理人	//		
			両面コピー・両面印刷をする	各部門長、各現場代理人	//		
			ミสปリント用紙で、可能なものについては裏面利用をする	各部門長、各現場代理人	//		
			使用済み封筒等の再利用をする	各部門長、各現場代理人	//		
			段ボール・古新聞の再利用をする	各部門長、各現場代理人	//		
	産業廃棄物		資源ごみとして処理をする（学校の廃品回収への提供等）	各部門長、各現場代理人	//		
			適正処理をし、可能なものは再使用・再生利用につながる処理をする	川村、中野、各現場代理人	//		
			マニフェスト管理の徹底	各部門長	//		
		作業ミスによる排出量の増加をさせない	川村、中野、各現場代理人	//			
環境保全活動の実施			ロードボランティア活動（清掃活動）を実施する	三吉	//		
			各種団体主催の清掃活動への参加	各部門長	//		
			ゴミの散乱防止	各部門長、各現場代理人	//		
			事務所・現場・修理工場周辺の清掃・整理整頓をする	各部門長、各現場代理人	//		
化学物資の適正な取り扱い			適正な保管を行い、盗難に遭わないようにする	各部門長、各現場代理人	//		
			適正に使用し、近隣等への漏洩防止をする	各部門長、各現場代理人	//		
			P R T R制度対象物質の使用量、もしくは購入量の把握	各部門長、各現場代理人	//		
環境負荷の少ない			環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用	各部門長、各現場代理人	//		
工事の実施				低騒音、排出ガス対策型重機の使用	各部門長、各現場代理人	//	
				型枠、工事看板への間伐材の使用	各部門長、各現場代理人	//	
				水質汚濁の防止	川村、中野、各現場代理人	//	
			チェーンソーの潤滑油は生分解性オイルを使用する	川村、各現場代理人	//		

9. 環境経営目標の達成状況

(1) 本年度実績

項目	単位	基準年 平成28年度 H28. 08-H29. 07	目標 令和 2年度 R02. 08-R03. 07	実績 令和 2年度 R02. 08-R03. 07	達成率 (%) ※ 3	評価 ※ 4
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂)	271, 850	266, 413	248, 408	93. 2	○ ※ 1
燃料使用量	(ℓ)	90, 148	88, 345	77, 356	87. 6	○
【内訳】 ガソリン	(ℓ)	25, 577	25, 066	32, 798	130. 8	×
軽油	(ℓ)	62, 626	61, 373	42, 676	69. 5	○
灯油	(ℓ)	1, 945	1, 906	1, 882	98. 7	○
電力使用量	(kWh)	80, 257	78, 652	104, 796	133. 2	×
LPガス使用量	(kg)	111	109	487	447. 6	×
用水使用量	(m ³)	748	733	1, 290	175. 9	×
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 750	2, 695	2, 436	90. 4	○
産業廃棄物排出量	(t)	740	725	1, 534	211. 5	×
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	82. 9	83. 7	×
環境美化活動	(回)	10	10	21	210. 0	○
環境負荷の少ない工事件数	(%)	(11/11件) 100	100	(11/11件) 100	100. 0	○ ※ 2

※ 1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の
四国電力㈱の調整後排出係数 0. 535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※ 2. 環境負荷の少ない工事件数 （完成工事高 1, 000万円以上の工事を対象とした）

令和2年度実績＝11/11件

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

* 3. 達成率 : 達成率 = (実績値/目標値) × 100 (%)

* 4. 評価 : 達成= ○、 未達成= × で記載する。

<環境目標未達成理由>

【ガソリン使用量】 目標値を約31%オーバー

高岡郡四万十町および高知市といった遠方の工事現場が多く、現地との移動・帰省に多くガソリンが使用されたことが大きな原因である、前年度と比較しても約17%増加している。

【電力使用量】 目標値を約33%オーバー

高知市の施工現場があり、職員宿舍用にアパートを3室、多い時で5室賃借したため、これに係る使用量が大きな原因である。前年度と比較しても約17%増加している。

【LPガス使用量】 目標値の約4. 4倍

これについても電力使用量と同じであり、高知市での職員宿舍用にアパートを賃借したため、これに係る使用量が大きな原因である。特に冬場の寒い時期の使用量が多くなった。前年度と比較しても約4倍となっている。

【用水使用量】 目標値を約76%オーバー

本年度も建物の解体工事があり防塵対策として散水を行ったこと、また高知市内職員宿舍用アパートでの使用量の発生が原因であった。

【産業廃棄物排出量】 目標値の約2. 1倍

本年度は、延べ面積約61, 000m²の除草・伐木・伐竹を行う護岸工事があった。この工事だけで排出された根株・竹などがおよそ650tもあり、目標値をオーバーした大きな原因であった。前年度比較でも約1. 5倍となっている。

【産業廃棄物再資源化率】 目標値に約17%及ばず

前年度より再資源化率は上昇したものの、本年度は建物の改修や解体工事、樋門の上屋建物の解体撤去工事から排出された廃プラスチック・建設混合廃棄物など、再資源化の難しいものが約220t排出されたため、目標を達成することは出来なかった。

(2) 過去3年間の実績

令和1年度より基準年度変更

項目	単位	基準年	平成30年度			基準年	令和 1年度			令和 2年度		
		平成23年度 H23. 08-H24. 07	目標	実績	達成率及び評価	平成28年度 H28. 08-H29. 07	目標	実績	達成率及び評価	目標	実績	達成率及び評価
該当決算期の売上高	百万円	1, 207	—	1, 443	—	1, 616	—	2, 204	—	—	1, 153	—

CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	334, 341	297, 563	254, 308	85. 5	○	271, 850	269, 132	212, 429	78. 9	○	266, 413	248, 408	93. 2	○
使用した 四国電力の排出係数	kg-CO2/kWh	0. 699						0. 535							

燃料使用量	ℓ	57, 506	51, 180	77, 740	151. 9	×	90, 148	89, 247	66, 530	74. 5	○	88, 345	77, 356	87. 6	○
電力使用量	kWh	271, 381	241, 529	83, 239	34. 5	○	80, 257	79, 454	89, 606	112. 8	×	78, 652	104, 796	133. 2	×
LPガス使用量	kg	222	198	96	48. 6	○	111	110	119	108. 1	×	109	487	447. 6	×
用水使用量	m ³	1, 296	1, 153	1, 535	133. 1	×	748	741	1, 264	170. 8	×	733	1, 290	175. 9	×
一般廃棄物排出量	kg	2, 172	1, 933	2, 344	121. 3	×	2, 750	2, 723	2, 389	87. 8	○	2, 695	2, 436	90. 4	○
産業廃棄物排出量	t	805	716	1, 772	247. 3	×	740	733	969	132. 2	×	725	1, 534	211. 5	×
産業廃棄物再資源化率	%	98. 7	99. 0	95. 8	96. 8	×	90. 5	99. 0	74. 0	74. 7	×	99. 0	82. 9	83. 7	×
環境美化活動	回	10	10	10	100. 0	○	10	10	14	140. 0	○	10	21	210. 0	○
環境負荷の少ない工事件数	%	(17/17件) 100	100	(16/16件) 100	100. 0	○	(11/11件) 100	100	(14/14件) 100	100. 0	○	100	(11/11件) 100	100. 0	○

10. 環境経営目標の達成状況（原単位 売上百万円当り）

（1）本年度実績

項目	単位	基準年 平成28年度 H28. 08-H29. 07	目標 令和 2年度 R02. 08-R03. 07	実績 令和 2年度 R02. 08-R03. 07	達成率 (%) ※ 3	評価 ※ 4
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)	168. 2	164. 9	215. 4	130. 7	× ※ 1
燃料使用量	(ℓ/百万円)	55. 8	54. 7	67. 1	122. 7	×
【内訳】 ガソリン		15. 8	15. 5	28. 5	183. 9	×
軽油		38. 8	38. 0	37. 0	97. 4	○
灯油		1. 2	1. 2	1. 6	133. 3	×
電力使用量	(kWh/百万円)	49. 7	48. 7	90. 9	186. 7	×
LPガス使用量	(kg/百万円)	0. 069	0. 067	0. 422	627. 3	×
用水使用量	(m ³ /百万円)	0. 463	0. 454	1. 119	246. 6	×
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1. 702	1. 668	2. 113	126. 7	×
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	0. 458	0. 449	1. 330	296. 5	×
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	82. 9	83. 7	×
環境美化活動	(回)	10	10	21	210. 0	○
環境負荷の少ない工事件数	(%)	(11/11件) 100	100	(11/11件) 100	100. 0	○ ※ 2

※ 1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の
四国電力㈱の調整後排出係数 0. 535（kg-CO₂/kWh）を使用。

※ 2. 環境負荷の少ない工事件数 （完成工事高 1, 000万円以上の工事を対象とした）

令和2年度実績＝11/11件

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

* 3. 達成率 ：達成率＝（実績値/目標値）× 100（%）

* 4. 評価 ：達成＝ ○、 未達成＝ × で記載する。

＜環境目標未達成理由＞

前年度までに比べ、工事現場が遠方であった事、職員宿舍用のアパートの賃借・そこに係る光熱費の使用など、いわば売上高（完成工事高）に直接関連しにくい費用支出の発生する工事の割合が多くなった事が、ガソリン・電力・用水の各使用量が未達成となった原因のひとつである。

産業廃棄物については、ここ近年、建物等の解体撤去を伴う工事などの受注割合が増加した事、これが原因となり未達成となった。

一般廃棄物排出量（主として本社より排出される紙ゴミなど）は例年とほぼ変わらない量であるが、本年度の売上高が前年の半分となったため、原単位排出量が増加したものになった。

(2) 過去3年間の実績（原単位 売上百万円当り）

令和1年度より基準年度変更

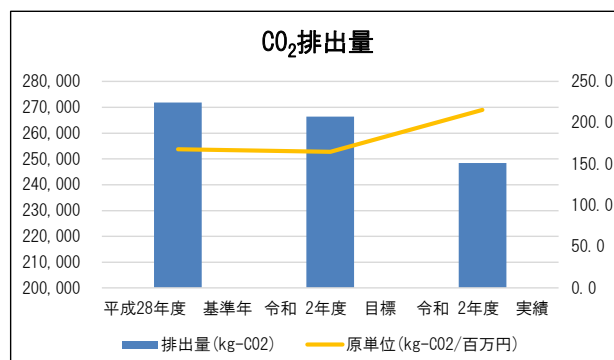
項目	単位	基準年 平成23年度 H23. 08-H24. 07	平成30年度 H30. 08-R1. 07			令和 1年度 R01. 08-R02. 07				令和 2年度 R02. 08-R03. 07		
			目標	実績	達成率及び評価	目標	実績	達成率及び評価		目標	実績	達成率及び評価
該当決算期の売上高	百万円	1, 207	—	1, 443	—	1, 616	—	2, 204	—	—	1, 153	—
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /百万円	277. 0	246. 5	176. 2	71. 5 ○	168. 2	166. 5	96. 4	57. 9 ○	164. 9	215. 4	130. 7 ×
使用した 四国電力の排出係数	kg-CO ₂ /kWh	0. 699					0. 535					
燃料使用量	l/百万円	47. 6	42. 4	53. 9	127. 1 ×	55. 8	55. 2	30. 2	54. 7 ○	54. 7	67. 1	122. 7 ×
電力使用量	kWh/百万円	224. 8	200. 1	57. 7	28. 8 ○	49. 7	49. 2	40. 7	82. 7 ○	48. 7	90. 9	186. 7 ×
LPガス使用量	kg/百万円	0. 184	0. 164	0. 067	40. 6 ○	0. 069	0. 068	0. 054	79. 3 ○	0. 067	0. 422	627. 3 ×
用水使用量	m ³ /百万円	1. 074	0. 956	1. 064	111. 3 ×	0. 463	0. 458	0. 574	125. 2 ×	0. 454	1. 119	246. 6 ×
一般廃棄物排出量	kg/百万円	1. 800	1. 602	1. 624	101. 4 ×	1. 702	1. 685	1. 084	64. 3 ○	1. 668	2. 113	126. 7 ×
産業廃棄物排出量	t/百万円	0. 667	0. 594	1. 228	206. 9 ×	0. 458	0. 453	0. 440	97. 0 ○	0. 449	1. 330	296. 5 ×
産業廃棄物再資源化率	%	98. 7	99. 0	95. 8	96. 8 ×	90. 5	99. 0	74. 0	74. 7 ×	99. 0	82. 9	83. 7 ×
環境美化活動	回	10	10	10	100. 0 ○	10	10	14	140. 0 ○	10	21	210. 0 ○
環境負荷の少ない工事件数	%	(17/17件) 100	100	(16/16件) 100	100. 0 ○	(11/11件) 100	100	(14/14件) 100	100. 0 ○	100	(11/11件) 100	100. 0 ○

1 1. 環境経営目標の達成状況

本年度実績

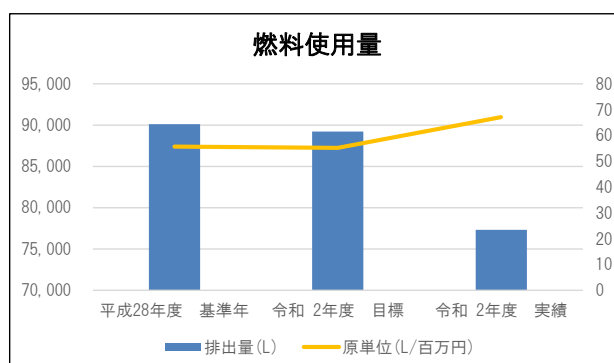
CO₂排出量

	排出量 (kg-CO ₂)	原単位 (kg-CO ₂ /百万円)
平成28年度 基準年	271,850	168.2
令和 2年度 目標	266,413	164.9
令和 2年度 実績	248,408	215.4
達成率 ※1	93.2%	130.7%



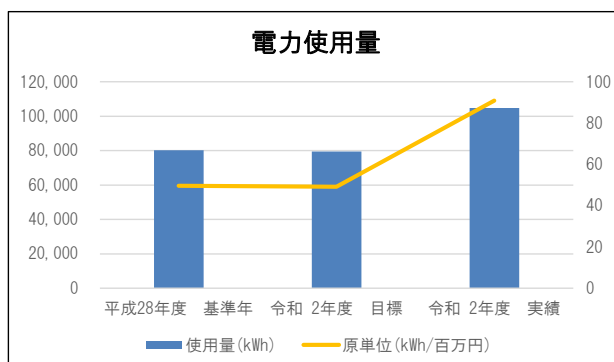
燃料使用量(ガソリン、軽油、灯油の総量)

	排出量 (L)	原単位 (L/百万円)
平成28年度 基準年	90,148	55.8
令和 2年度 目標	89,247	55.2
令和 2年度 実績	77,356	67.1
達成率 ※1	86.7%	121.5%



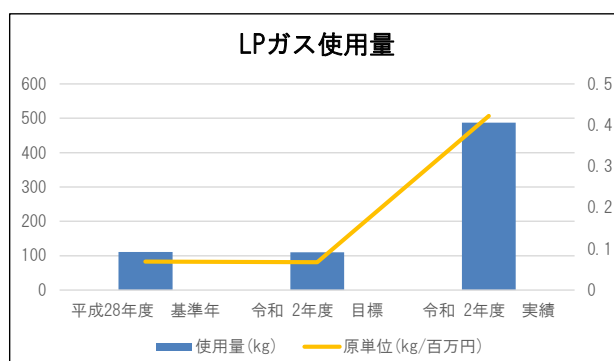
電力使用量

	使用量 (kWh)	原単位 (kWh/百万円)
平成28年度 基準年	80,257	49.7
令和 2年度 目標	79,454	49.2
令和 2年度 実績	104,796	90.9
達成率 ※1	131.9%	184.7%



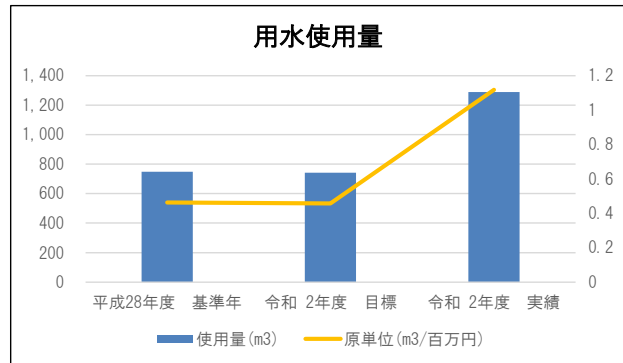
LPガス使用量

	使用量 (kg)	原単位 (kg/百万円)
平成28年度 基準年	111	0.069
令和 2年度 目標	110	0.068
令和 2年度 実績	486.86	0.422
達成率 ※1	442.6%	621.0%



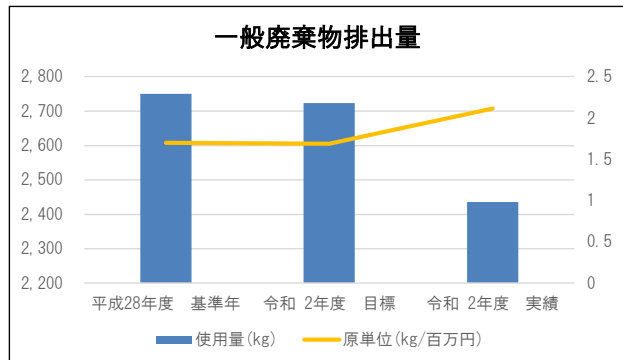
用水使用量

	使用量 (m ³)	原単位 (m ³ /百万円)
平成28年度 基準年	748	0.463
令和 2年度 目標	741	0.458
令和 2年度 実績	1,290	1.119
達成率 ※1	174.0%	244.2%



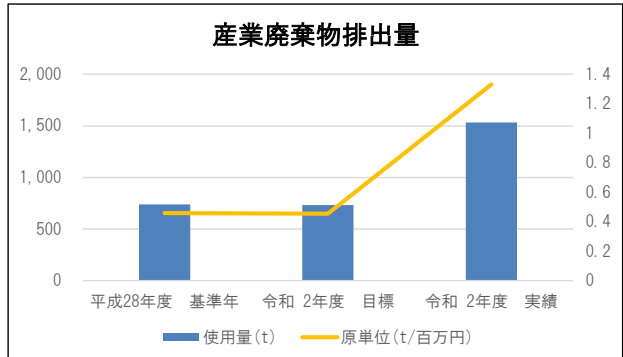
一般廃棄物排出量

	使用量 (kg)	原単位 (kg/百万円)
平成28年度 基準年	2,750	1.702
令和 2年度 目標	2,723	1.685
令和 2年度 実績	2,436	2.113
達成率 ※1	89.5%	125.4%



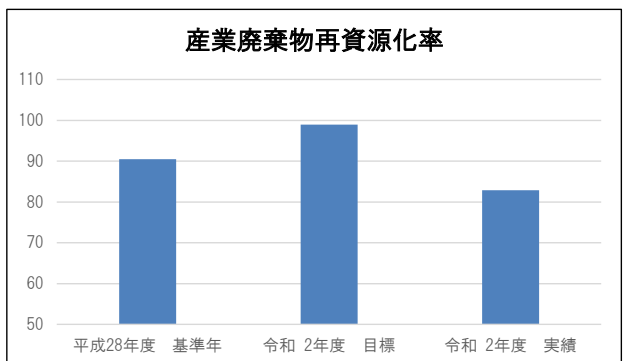
産業廃棄物排出量

	使用量 (t)	原単位 (t/百万円)
平成28年度 基準年	740	0.458
令和 2年度 目標	733	0.453
令和 2年度 実績	1,534	1.330
達成率 ※1	209.3%	293.7%



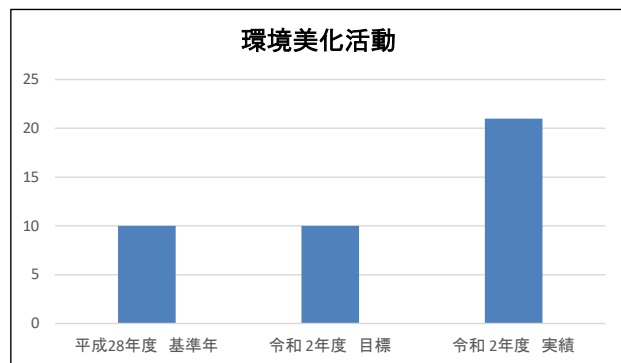
産業廃棄物再資源化率

	再資源化率 (%)
平成28年度 基準年	90.5
令和 2年度 目標	99.0
令和 2年度 実績	82.9
達成率 ※1	83.7%



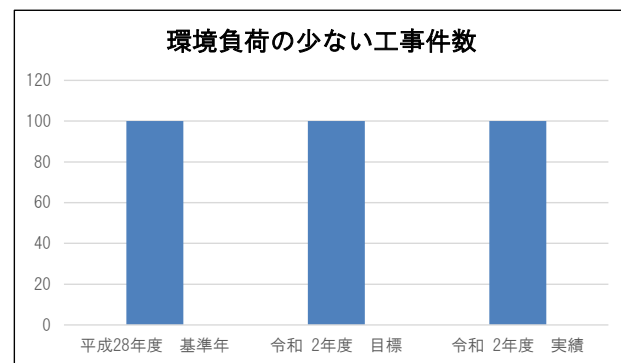
環境美化活動

	環境美化活動(回)
平成28年度 基準年	10
令和 2年度 目標	10
令和 2年度 実績	21
達成率 ※1	210.0%



環境負荷の少ない工事件数

	件数(%)
平成28年度 基準年	100
令和 2年度 目標	100
令和 2年度 実績	100
達成率 ※1	100.0%



※1. 達成率 = (実績値/目標値) × 100 (%)

1 2. 環境活動計画の取組結果とその評価

期間：令和2年8月～令和3年7月

項目		活動内容		取組結果	評価	見直し	
CO ₂ 排出量 削減	燃料使用量 削減		急発進、急加速の禁止	よく取り組めている。	○	今後も継続していく。	
			不要なアイドリングの禁止	よく取り組めている。	○	今後も継続していく。	
			重機による積込みを効率良く行う	段取りを考え、取り組めている。	○	今後も継続していく。	
			車両点検を定期的に行う（タイヤ空気圧、オイル等）	定期的に修理工場で点検を行っている。	○	今後も継続していく。	
			移動経路のプランニング、可能な場合は乗り合わせる等、効率的な移動・稼働をする	自宅から現場の近い者は、本社に寄らず現場に直接出勤している。	○	今後も継続していく。	
			長期退室時は消火を行い、 unnecessaryなストーブ稼働はしない	よく取り組めている。	○	今後も継続していく。	
			換気時以外、ストーブ使用時は不必要にドアを開けっ放しにしない	よく取り組めている。	○	今後も継続していく。	
	電力使用量 削減		昼休み・退社時の消灯を徹底する	よく取り組めている。	○	今後も継続していく。	
			長時間使用しないOA機器は電源を切り、 unnecessaryな機器はプラグを抜く	退社時の unnecessaryなPC電源の切り忘れがある。	△	定期的な周知・徹底が必要。	
			エアコンの過度な温度設定は控える	注意して行っている。	○	今後も継続していく。	
			エアコンフィルターの清掃をする	一部、行えていない。	△	夏前、冬前には行うよう徹底する。	
			トイレ・会議室・倉庫・給湯室等の照明は使用時のみ点灯する	時々、使用後に照明の消し忘れがある。	○	今後も継続していく。	
			冷房効果を上げるため、現場事務所上部に寒冷遮を張る	必要な現場事務所は行えている。	○	今後も継続していく。	
			冷房効果を上げるため、エアコン室外機の設置箇所などを工夫する	必要な現場事務所は行えている。	○	今後も継続していく。	
用水使用量削減 (排水量削減)			こまめに蛇口の栓を閉める	よく取り組めている。	○	今後も継続していく。	
			漏水箇所を発見したら、早急に改善する	定期的に取り組めている。	○	今後も継続していく。	
廃棄物削減	一般廃棄物		文書等で可能なものについては回覧をする	電子メール、LINEアプリを利用している。また、各人が必要な部分をコピーしている。	○	今後も継続していく。	
			両面コピー・両面印刷をする	利用可能なものについてはできている。	○	今後も継続していく。	
			ミスプリント用紙で、可能なものについては裏面利用をする	メモ用紙、チェック用の書類出力などに利用できている。	○	今後も継続していく。	
			使用済み封筒等の再利用をする	社内および現場への書類を渡す時などに、よく利用している。	○	今後も継続していく。	
			段ボール・古新聞の再利用をする	修理工場での自動車塗装時のマスキングに古新聞が再利用されている。	○	今後も継続していく。	
			資源ごみとして処理をする（学校の廃品回収への提供等）	段ボールは資源ごみとして、業者に回収してもらっている。	○	今後も継続していく。	
	産業廃棄物		適正処理をし、可能なものは再利用・再生利用につながる処理をする	よく取り組めている。	○	再資源化率を高める努力をする。	
			マニフェスト管理の徹底	現場によってはスムーズな流れで進まない事があった。	△	教育も含め、周知、徹底が必要。	
			作業ミスによる排出量の増加をさせない		排出量増加につながる作業ミスはなかった。	○	今後も継続していく。
環境保全活動の実施		 	ロードボランティア活動（清掃活動）を実施する	目標回数以上、実施できた。	○	今後も継続していく。	
			各種団体主催の清掃活動への参加	商工会、業界団体などの清掃活動へは積極的に参加できた。	○	継続して取り組む。	
			ゴミの散乱防止	よく取り組めている。	○	強風・台風時などは特に注意をすること。	
			事務所・現場・修理工場周辺の清掃・整理整頓をする	社内パトロール時に指摘された現場があった。その都度、是正は行っている。	△	現場においては、事故につながる危険性があるため、再認識が必要。	
化学物質の適正な取り扱い		 	適正な保管を行い、盗難に遭わないようにする	倉庫などに鍵をかけて保管。紛失・盗難事例なし。	○	今後も継続していく。	
			適正に使用し、近隣等への漏洩防止をする	近隣等への漏洩なし。	○	今後も継続していく。	
			P R T R制度対象物質の使用量、もしくは購入量の把握	購入量を把握している。	○	今後も継続していく。	
環境負荷の少ない 工事の実施		 	環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用	再生生コン、再生砕石等の使用など、実施されている。	○	今後も継続していく。	
低騒音、排出ガス対策型重機の使用	各現場で使用されている。		○	今後も継続していく。			
型枠、工事看板への間伐材の使用	可能な場合、進んで利用されている。		○	今後も継続していく。			
水質汚濁の防止	各現場で対策が実施され、特に苦情は受けていない。		○	今後も継続していく。			
			チェーンソーの潤滑油は生分解性オイルを使用する	実施されている。	○	更なる使用推進に取り組む。	

具体的な取組状況



1. ロードボランティア

毎月、県道20号線沿いの清掃活動を行っています。
地域の美化活動などにもボランティアとして参加しています。



2. グリーンカーテン

本社南側及び西側に緑のカーテンを設置。夏場の冷房負荷の削減に貢献しています。



3. 手洗い場の自動水洗化

炊事場やトイレの手洗い場は自動水洗のものに更新し、流しっ放しなど過剰な水の排出抑制に繋がっています。



4. 社用車の更新

令和2年度(令和2年8月～令和3年7月)には5台、過去3年間で9台の社用車を更新しました
従来の社用車に比べ、燃費が向上しガソリンの使用量削減に貢献しています。



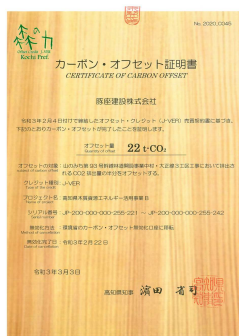
5. 環境に良いゴミ袋の利用

ロードボランティアや本社で使用しているゴミ袋は再生プラスチック100%の環境に配慮製品を利用しています。



6. 環境保護ベース型発電機を使用

発電機が必要な現場では環境保護ベースと本体が一体となった発電機を利用しています。
燃料オイルの外部流出の抑制に繋がっています。



7. カーボンオフセット制度の活用

工事名：山のみち第93号幹線林道開設事業中村・大正線3工区工事
高知県発注工事において、制度を活用し、CO₂排出のオフセットを行った。



1 3. 次年度の環境経営目標

(1) 単年度目標

項目	単位	基準年 平成28年度 H28. 08-H29. 07	過去3年間 排出量の平均 H30. 08-R3. 07	目標 令和 3年度 R03. 08-R04. 07	備考 ※ 3	
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂)	271, 850	238, 382	263, 695	基準年値より3%削減	※ 1
燃料使用量	(ℓ)	90, 148	73, 875	87, 444	基準年値より3%削減	
電力使用量	(kWh)	80, 257	92, 547	79, 454	基準年値より1%削減	
LPガス使用量	(kg)	111	234	110	基準年値より1%削減	
用水使用量	(m ³)	748	1, 363	741	基準年値より1%削減	
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 750	2, 390	2, 668	基準年値より3%削減	
産業廃棄物排出量	(t)	740	1, 425	733	基準年値より1%削減	
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	84. 2	93. 0		
環境美化活動	(回)	10	10	10		
環境負荷の少ない工事件数	(%)	(11/11件) 100	(41/41件) 100	100		※ 2

※ 1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の四国電力㈱の調整後排出係数 0. 535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※ 2. 環境負荷の少ない工事件数 （完成工事高 1, 000万円以上の工事を対象とした）

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

※ 3. 基準年の実績、過去3年間（平成30年度、令和1年度、令和2年度）の使用量の平均を参考に、各項目別に削減率を設定。

(2) 中長期目標

（平成28年 8月～平成29年 7月を基準年とする。）

項目	単位	平成28年度 H28. 08-H29. 07 実績（基準年）	令和 3年度 R03. 08-R04. 07 次年度目標	令和 4年度 R04. 08-R05. 07	令和 5年度 R05. 08-R06. 07	令和 6年度 R06. 08-R07. 07
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂)	271, 850	263, 695	261, 000	258, 400	255, 900
燃料使用量	(ℓ)	90, 148	87, 444	86, 600	85, 700	84, 800
電力使用量	(kWh)	80, 257	79, 454	78, 700	77, 900	77, 000
LPガス使用量	(kg)	111	110	109	108	107
用水使用量	(m ³)	748	741	730	720	710
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 750	2, 668	2, 640	2, 610	2, 590
産業廃棄物排出量	(t)	740	733	725	720	710
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	93. 0	93. 0	93. 0	93. 0
環境美化活動	(回)	10	10	10	10	10
環境負荷の少ない工事件数	(%)	(11/11件) 100	100	100	100	100

1 4. 次年度の環境経営目標（原単位 売上百万円当り）

（１）単年度目標

項目		基準年 平成28年度 H28. 08-H29. 07	過去3年間 排出量の平均 H30. 08-R3. 07	目標 令和 3年度 R03. 08-R04. 07	備考 ※ 3	
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)	168. 2	162. 7	163. 2	基準年値より3%削減	※ 1
燃料使用量	(ℓ/百万円)	55. 8	50. 4	54. 1	基準年値より3%削減	
電力使用量	(kWh/百万円)	49. 7	63. 1	49. 2	基準年値より1%削減	
LPガス使用量	(kg/百万円)	0. 069	0. 181	0. 068	基準年値より1%削減	
用水使用量	(m ³ /百万円)	0. 463	0. 919	0. 458	基準年値より1%削減	
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1. 578	1. 607	1. 531	基準年値より3%削減	
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	0. 477	0. 999	0. 472	基準年値より1%削減	
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	84. 2	93. 0		
環境美化活動	(回)	10	10	10		
環境負荷の少ない工事件数	(%)	(11/11件) 100	(41/41件) 100	100		※ 2

※ 1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の
四国電力㈱の調整後排出係数 0. 535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※ 2. 環境負荷の少ない工事件数 （完成工事高 1, 000万円以上の工事を対象とした）

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

※ 3. 基準年の実績、過去3年間（平成30年度、令和1年度、令和2年度）の使用量の平均を参考に、
各項目別に削減率を設定。

（２）中長期目標（平成28年 8月～平成29年 7月を基準年とする。）

項目	単位	平成28年度 H28. 08-H29. 07 実績（基準年）	令和 3年度 R03. 08-R04. 07 次年度目標	令和 4年度 R04. 08-R05. 07	令和 5年度 R05. 08-R06. 07	令和 6年度 R06. 08-R07. 07
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)	168. 2	163. 2	161. 5	159. 9	158. 3
燃料使用量	(ℓ/百万円)	55. 8	54. 1	53. 6	53. 0	52. 5
電力使用量	(kWh/百万円)	49. 7	49. 2	48. 7	48. 2	47. 7
LPガス使用量	(kg/百万円)	0. 069	0. 068	0. 067	0. 067	0. 066
用水使用量	(m ³ /百万円)	0. 463	0. 458	0. 454	0. 449	0. 445
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1. 578	1. 531	1. 515	1. 500	1. 485
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	0. 477	0. 472	0. 467	0. 462	0. 458
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	93. 0	93. 0	93. 0	93. 0
環境美化活動	(回)	10	10	10	10	10
環境負荷の少ない工事件数	(%)	(11/11件) 100	100	100	100	100

過去三年間の実績

		平成30年度 H30. 08-R1. 07	令和1年度 R1. 08-R2. 07	令和2年度 R2. 08-R3. 07	平均
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂)	254, 308	212, 429	248, 408	238, 382
燃料使用量	(ℓ)	77, 740	66, 530	77, 356	73, 875
電力使用量	(kWh)	83, 239	89, 606	104, 796	92, 547
LPガス使用量	(kg)	96	119	487	234
用水使用量	(m ³)	1, 535	1, 264	1, 290	1, 363
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 344	2, 389	2, 436	2, 390
産業廃棄物排出量	(t)	1, 772	969	1, 534	1, 425
産業廃棄物再資源化率	(%)	95. 8	74. 0	82. 9	84. 2

原単位		平成30年度 H30. 08-R1. 07	令和1年度 R1. 08-R2. 07	令和2年度 R2. 08-R3. 07	平均
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)	176. 2	96. 4	215. 4	162. 7
燃料使用量	(ℓ/百万円)	53. 9	30. 2	67. 1	50. 4
電力使用量	(kWh/百万円)	57. 7	40. 7	90. 9	63. 1
LPガス使用量	(kg/百万円)	0. 067	0. 054	0. 4	0. 181
用水使用量	(m ³ /百万円)	1. 064	0. 574	1. 119	0. 919
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1. 624	1. 084	2. 113	1. 607
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	1. 228	0. 440	1. 330	0. 999

売上高	(百万円)	1, 443	2, 204	1, 153	
-----	-------	--------	--------	--------	--

15. 次年度の環境活動計画の取組内容

期間：令和3年8月～令和4年7月



項目		活動内容	担当者	期間
CO ₂ 排出量削減	燃料使用量削減	急発進、急加速の禁止	各部門長、各現場代理人	R03. 08-R04. 07
		不要なアイドリングの禁止	各部門長、各現場代理人	//
		重機による積込みを効率良く行う	各部門長、各現場代理人	//
		車両点検を定期的に行う（タイヤ空気圧、オイル等）	各部門長	//
		移動経路のプランニング、可能な場合は乗り合わせる等、効率的な移動・稼働をする	各部門長、各現場代理人	//
		長期退室時は消火を行い、不必要なストーブ稼働はしない	各部門長、各現場代理人	//
		換気時以外、ストーブ使用時は不必要にドアを開けっ放しにしない	各部門長、各現場代理人	//
		電力使用量削減	昼休み・退社時の消灯を徹底する	各部門長、各現場代理人
	長時間使用しないＯＡ機器は電源を切り、不必要な機器はプラグを抜く		各部門長、各現場代理人	//
	エアコンの過度な温度設定は控える		各部門長、各現場代理人	//
	エアコンフィルターの清掃をする		各部門長、各現場代理人	//
	トイレ・会議室・倉庫・給湯室等の照明は使用時のみ点灯する		三吉	//
	冷房効果を上げるため、現場事務所上部に寒冷遮を張る		川村、中野、各現場代理人	//
	冷房効果を上げるため、エアコン室外機の設置箇所などを工夫する		川村、中野、各現場代理人	//
用水使用量削減（排水量削減）			こまめに蛇口の栓を閉める	各部門長、各現場代理人
		漏水箇所を発見したら、早急に改善する	各部門長、各現場代理人	//
廃棄物削減	一般廃棄物	文書等で可能なものについては回覧をする	各部門長、各現場代理人	//
		両面コピー・両面印刷をする	各部門長、各現場代理人	//
		ミスプリント用紙で、可能なものについては裏面利用をする	各部門長、各現場代理人	//
		使用済み封筒等の再利用をする	各部門長、各現場代理人	//
		段ボール・古新聞の再利用をする	各部門長、各現場代理人	//
		資源ごみとして処理をする（学校の廃品回収への提供等）	各部門長、各現場代理人	//
		産業廃棄物	適正処理をし、可能なものは再使用・再生利用につながる処理をする	川村、中野、各現場代理人
	マニフェスト管理の徹底		各部門長	//
	作業ミスによる排出量の増加をさせない		川村、中野、各現場代理人	//
環境保全活動の実施		ロードボランティア活動（清掃活動）を実施する	三吉	//
		各種団体主催の清掃活動への参加	各部門長	//
		ゴミの散乱防止	各部門長、各現場代理人	//
		事務所・現場・修理工場周辺の清掃・整理整頓をする	各部門長、各現場代理人	//
		化学物資の適正な取り扱い		適正な保管を行い、盗難に遭わないようにする
適正に使用し、近隣等への漏洩防止をする	各部門長、各現場代理人			//
P R T R制度対象物質の使用量、もしくは購入量の把握	各部門長、各現場代理人			//
環境負荷の少ない工事の実施		環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用	各部門長、各現場代理人	//
		低騒音、排出ガス対策型重機の使用	各部門長、各現場代理人	//
		型枠、工事看板への間伐材の使用	各部門長、各現場代理人	//
		水質汚濁の防止	川村、中野、各現場代理人	//
		チェーンソーの潤滑油は生分解性オイルを使用する	川村、各現場代理人	//

16. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

主な適用法規	規制内容	実施内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守 状況	確認日
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) 第12条 第12条の2 第12条の3	産業廃棄物の委託処理 特別管理産業廃棄物に係る処理 (水銀使用製品産業廃棄物を含む。)	◎ 委託契約の締結、許可確認 ◎ マニフェストの交付、回収、照合 ◎ 運搬車両へ、産業廃棄物を収集運搬している旨の表示 ◎ マニフェスト交付状況報告書作成・報告 ◎ 多量排出事業者(年間1,000t以上)に該当した場合、処理計画書および処理計画実施状況報告書の提出	都度 8月 1回/年 6月 該当時	三吉 規文 川村 尊章	遵守	令和3年9月2日 令和3年4月28日 令和3年4月28日
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 (建設リサイクル法) 第12条	解体工事80㎡以上、 新築・増築工事500㎡以上、 修繕・模様替工事1億円以上、 その他の工作物に関する工事 (土木工事等)500万円以上	◎ 発注者への書面による計画等説明 (分別解体等、再資源化等の促進、再生資源の使用)	各工事毎 8月	三吉 規文	遵守	令和3年9月3日
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律 (オフロード法) 第4条の2	特定特殊自動車排出ガスによる 大気汚染の防止	◎ 基準適合機械の使用(平成18年10月以降に製作されている建設機械等については基準適合表示等の貼つてあるものを使用)	1回/年 8月	川村 尊章	遵守	令和3年8月31日
騒音規制法 第14条	杭打機、びょう打機、削岩機、 空気圧縮機等を使用する作業	◎ 特定建設作業の届出、作業敷地境界にて85デシベル以下	1回/年 8月	川村 尊章	遵守	令和3年8月31日
振動規制法 第14条	杭打機、杭拔機、ブレーカー、 舗装版破砕機を使用する作業	◎ 特定建設作業の届出、作業敷地境界にて75デシベル以下	1回/年 8月	川村 尊章	遵守	令和3年8月31日
建築基準法 第28条の2	石綿その他の物質の飛散又は 発散に対する衛生上の措置	◎ 建築材料に石綿を添加しない。 ◎ 石綿をあらかじめ添加した建築材料を使用しない ◎ 居室を有する建築物で、クロロビリホス及びホルムアルデヒドを含む建築材料を使用する場合においては、建築基準法施行令で定める技術的基準に適合するものとする	各工事毎 8月	中野 量方	遵守	令和3年9月3日
四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例 (四万十川条例) 第7条 第13条 第14条	流域内において行う事業活動 に関し、四万十川の保全及び 流域の振興に努める	◎ 指定地域内での土地の形状変更、建築物の新築その他、制限等のある行為を行う場合には、知事の許可を受けなければならない	1回/年 8月	三吉 規文	遵守	令和3年9月6日
使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法) 第42条	廃棄車両の引き渡し	◎ 自治体に登録・許可された業者への廃棄車両の引き渡しを行う	1回/年 8月	川村 尊章	遵守	令和3年8月31日
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法) 第16条 第41条 第42条の1及び3 第43条の1～3	第1種特定製品の点検 点検及び整備に係る記録 第1種特定製品廃棄等実施者の引渡義務 特定解体工事元請業者の確認及び説明等 第1種特定製品廃棄等実施者による書面の交付等 ※ 第1種特定製品廃棄等実施者 ＝ 第1種特定製品の所有者	◎ 四半期ごとに一回、対象機器の簡易点検結果を実施する。 ◎ 点検及び整備に係る記録について、機器を廃棄した後も3年間保存する。 ◎ 第1種特定製品にフロン類が充填されていないことを確認した場合を除き、自ら又は他の者に委託して、第1種フロン類充填回収業者に対し、冷媒として充填されているフロン類を引き渡す ◎ 当該建築物その他の工作物における第1種特定製品の設置の有無について確認する ◎ 特定解体工事発注者に対し、確認の結果について書面を交付し説明する ◎ 交付した書面の写しを3年間保存する ◎ 第1種特定製品廃棄等実施者は、第1種特定製品に冷媒として充填されているフロン類を自ら第1種フロン類回収業者に引き渡すときは、必要事項を記載した書面(回収依頼書)を交付する ◎ 第1種特定製品廃棄等実施者は、第1種特定製品に冷媒として充填されているフロン類を自ら第1種フロン類回収業者への引き渡しを他の者に委託する場合において、委託契約を締結したときは遅滞なく、必要事項を記載した書面(委託確認書)を交付する ◎ 第1種特定製品廃棄等実施者は、回収依頼書の写し又は委託確認書の写しをそれぞれ当該交付した日から3年間保存する	4回/年 8月 該当時 該当時 該当時 該当時	三吉 規文 川村 尊章 中野 量方 三吉 規文 川村 尊章	遵守 — — — —	令和3年9月1日 — — — —
浄化槽法 第11条	第10条 保守点検、清掃 第11条	◎ 2ヶ月毎に登録業者に保守点検を委託する ◎ 年に一回以上の清掃を清掃業者に委託する ◎ 年に一度、法定検査を受ける	6回/年 8月	三吉 規文	遵守	令和3年7月27日

主な適用法規	規制内容	実施内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守 状況	確認日
大気汚染防止法 第18条の17 第18条の18	粉じんの規制 特定工事	◎ 解体等工事实施前の特定工事に該当するか否かの調査と報告 ◎ 解体等工事施工時に調査結果を掲示板に掲示 ◎ 特定工事施工時には作業基準を遵守	各工事毎 8月	川村 尊章	遵守	令和3年8月31日
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR法) 第2条 第5条	第一種指定化学物質等取扱事業者 排出量及び移動量の把握・届出	【対象業種】 ◎ 自動車整備業が含まれる 【従業員数】 ◎ 常用雇用者21人以上 【取扱量】 ◎ 第一種指定化学物質年間取扱量1t未満のため非該当 ◎ 特定第一種指定化学物質の取扱いがないため非該当 ◎ 届出必要なし	該當時	川村 尊章	—	—

(2) 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

令和 2年 8月より令和 3年 7月まで、環境関連法規等への違反、訴訟及び外部からの苦情・要望等はありませんでした。

17. 代表者による全体評価と見直しの結果

【全体評価】

エコアクション21の認証を受け、活動を外部に公表することにより社会的信頼性が向上しています。環境対策活動は企業として当然の社会的責任の一環となっており、地球環境への配慮はSDGsで幅広く網羅されている課題にもあがっています。

本年度は、CO₂排出量の目標達成、カーボン・オフセット実施、社用車の更新の実施、工事箇所の近隣住民への配慮など、出来得る環境問題への対応は出来たと考えています。

工事現場における濁水対策、稚鮎の放流やゴミ拾い活動、花の移植作業など、役職員各々が何が出来ののかを考え、環境配慮への取り組みを行っています。

これからも循環型社会および地域貢献活動、働きやすい職場環境づくりを進めるにあたり、様々な工夫を凝らし、二酸化炭素（CO₂）排出量の削減に向け、地球規模で問題となっているうちのひとつ「環境対策」に、弊社も取り組める問題から真摯に取り組み、微力ではありますが貢献していきます。

これらのことから、役職員に環境配慮への意識が浸透し、環境活動が実行されていますので、エコアクション21は環境経営システムとして有効に機能していると判断できます。

【見直しの結果】

環境経営方針、環境経営目標、環境活動計画、環境経営実施体制の変更の必要性なし。

【指示事項】

SDGsの取り組みを行う。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を怠らない。

健康管理には十分に気を付けよう。

カーボン・オフセットの活用を継続する。

令和 3 年 10 月 25 日

豚 座 建 設 株 式 会 社
代表取締役 佐 田 憲 昭